

ジベレリンとジャスモン酸の混用散布による温州ミカン「肥のみらい」の浮き皮軽減法

温州ミカン「肥のみらい」では、収穫 60 日～80 日前にジベレリンとジャスモン酸を混用散布すると浮き皮の発生が軽減される。また、ジベレリン 1ppm とジャスモン酸 25ppm の混用散布は、無処理と比べ、着色にほとんど差がなく、果実品質も変わらない。

農業研究センター果樹研究所常緑果樹研究室 (担当者: 相川博志)

研究のねらい

温州ミカン「肥のみらい」は、11 月中旬には完全着色し、果皮色は濃くなるが、浮き皮が発生しやすい。特に、温暖な気象条件や秋期のまとまった降雨により浮き皮発生が助長され、品質が低下する。

そこで、浮き皮軽減効果があるジベレリン (以下、GA) とジャスモン酸 (以下、PDJ) の混用散布による浮き皮発生軽減技術を開発する。

研究の成果

1. GA1.0ppm または 3.3ppm に PDJ25ppm を収穫 60～80 日前に混用散布することにより、無散布に比べ浮き皮発生率が低く、その程度も軽い (図 1, 図 2)。
2. 収穫時における果実の着色歩合や果皮色は、散布濃度 GA3.3ppm では無散布よりやや遅れるが、GA1.0ppm ではほとんど差がない (図 3)。
3. 果実の糖度およびクエン酸濃度は、GA と PDJ の混用散布の有無ではほとんど差がない (データ略)。

普及上の留意点

1. 散布濃度 GA3.3ppm と PDJ25ppm の混用散布では、着色が遅れ、収穫時に緑斑が残ることがあるが、予措期間中にほとんど消失する。

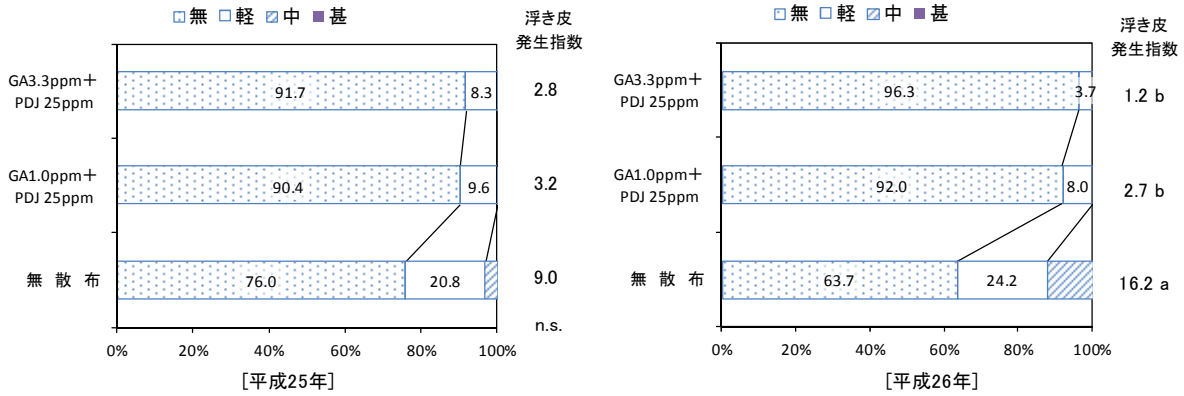


図1 ジベレリンとジャスモン酸の混用散布が「肥のみらい」の浮き皮発生に及ぼす影響

注1) 収穫日: 平成25年は11月14日, 平成26年は11月17日
 注2) 散布日: 平成25年は8月27日, 平成26年は8月26日散布と9月16日散布の平均値
 注3) Tukeyの多重検定により異符号間に有意差あり(5%水準)

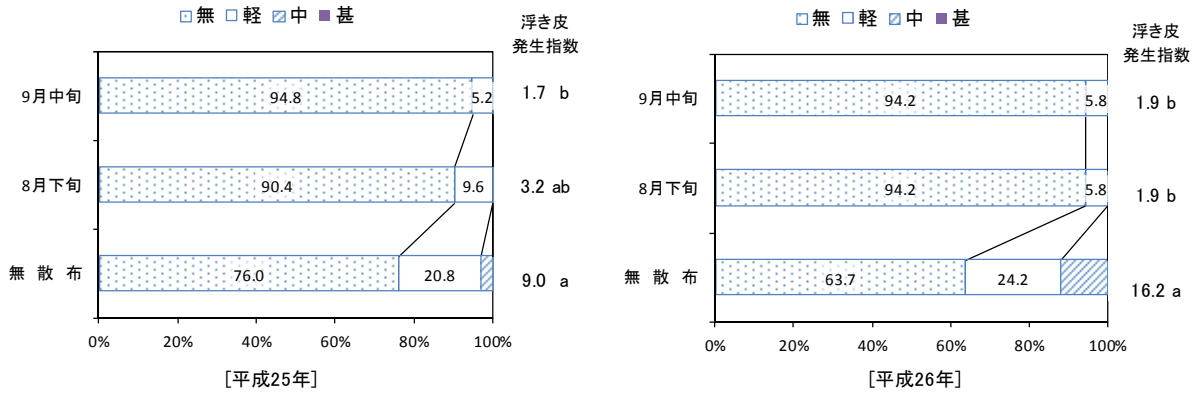


図2 ジベレリンとジャスモン酸の混用散布時期が「肥のみらい」の浮き皮発生に及ぼす影響

注1) 収穫日: 平成25年は11月14日, 平成26年は11月17日
 注2) 散布濃度 平成25年: GA 1.0ppm+PDJ 25ppm
 平成26年: GA 1.0ppm+PDJ 25ppmとGA 3.3ppm+PDJ 25ppmの平均値
 注3) Tukeyの多重検定により異符号間に有意差あり(5%水準)

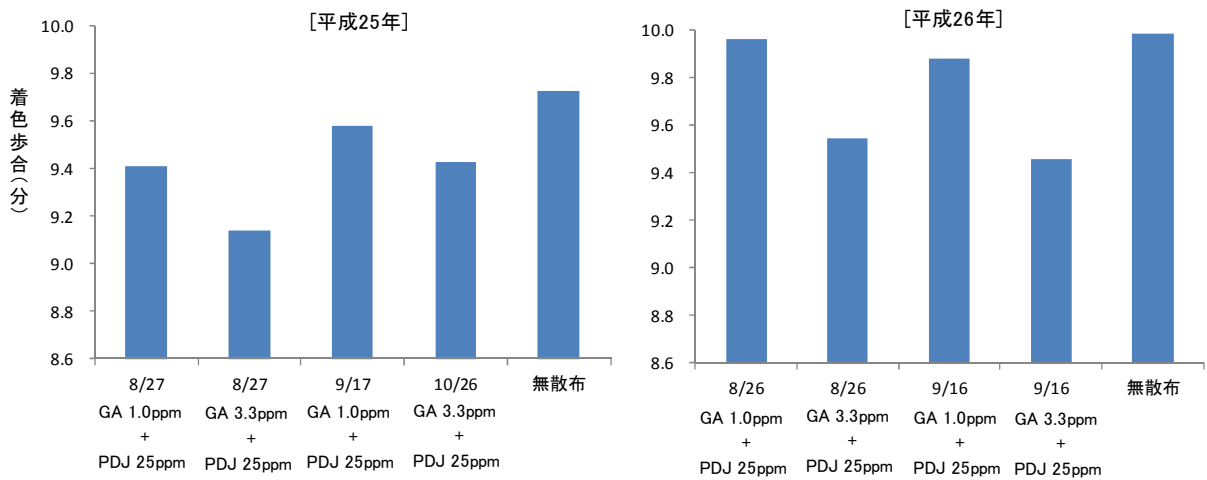


図3 ジベレリンとジャスモン酸の混用散布が「肥のみらい」の着色に及ぼす影響

注1) 収穫日: 平成25年は11月14日, 平成26年は11月17日
 注2) 散布日: 平成25年は8月27日, 9月17日, 10月26日
 平成26年は8月26日, 9月16日